

西山の弥陀三尊種子板碑・弥陀一尊種子板碑

にしまのみださんぞんしゅしいたび・みだいつそんしゅしいたび



文化財愛護シンボルマーク

名称	西山の弥陀三尊種子板碑・弥陀一尊種子板碑	材質	各 石造、凝灰岩(竜山石)製
別称	弥陀三尊種子板碑・弥陀一尊種子板碑、 石造種子板碑、西山の種子板碑、 西山の板碑	時代	鎌倉時代、13世紀 弥陀一尊種子板碑は弘安4(1281)年
数量	2基	所在地	加古川市平荘町西山 103
寸法	弥陀三尊種子板碑 地上高 160cm、幅 76cm、厚 21cm 弥陀一尊種子板碑 地上高 78cm、幅 93cm、厚 19cm	所有者	西山町内会
		指定	加古川市指定文化財
		指定分類	考古資料
		指定名称	弥陀三尊種子板碑・弥陀一尊種子板碑
		指定年月日	平成 27(2015)年 2月 26日







弥陀三尊種子板碑・弥陀一尊種子板碑

平荘町の西山集落の地蔵堂の裏に中世の石造品が
集めて置かれています。その中の北側に、2基の板碑
が南面して立てられています。

板碑とは、主に中世に供養塔として使われる石碑で、
板面には種子（梵字）や仏像を表し、その下に供養者
や年月日などの銘文が刻まれることが多いものです。
古い時代のものは鎌倉武士の信仰に強く関連すると
考えられています。

これらの板碑は、材質が凝灰岩（竜山石）で、いず
れも古墳時代の組合せ式石棺の部材を転用したもの
です。もとは飯盛山の中腹のドウヤシキという場所に
立っていましたが、明治時代の終わり頃に西山集落に
地元の人によって移動したものと伝えられています。

向かって左の板碑は、組合せ式石棺の長側面の側
石の部材を転用したもので、中央に弥陀三尊種子（（キリーク）、（サ）、（サク））が彫られています。

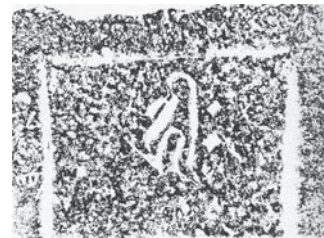
向かって右の板碑は、削平された縁取りから組合
せ式石棺の底石の部材を転用したものであることが
わかり、上部に阿弥陀如来の種子（キリーク）が彫
られています。また、向かって左の縁取りの部分に
「弘安四」の紀年銘があり、鎌倉時代の弘安4（1281）
年のものであることがわかります。

いずれの種子も古調で同式であることから、これら
2基の板碑は、同時期に種子を刻んだものと考えられ
ます。また、材質と大きさから同一の石棺の部材であ
ると考えられています。

これらの2基の種子板碑は、この地域の特色である
古墳時代の石棺材を再利用した石造品で、加古川市の
中世の石造品として貴重なものです。



弥陀三尊種子拓本



弥陀一尊種子及び
紀年名「弘安四」拓本



西山の種子板碑全景

（拓本／『加古川市史第7巻』から転載、文・写真／宮本）

●参考文献

『加古川の石棺と石棺仏』大手前大学考古学研究室
（1983年）

『写真でたずねる鹿兒の石造遺物』加古川市文化財
保護協会（1984年）

『加古川市史 第7巻』加古川市（1986年）

『播磨の石棺仏』小野市立好古館特別展図録（2001
年）

『播磨の石棺と石棺仏』中村和男、神戸新聞総合出
版センター（2012年）

「文化財ニュース 58号」加古川市教育委員会（2015
年）

●キーワード

種子板碑、石棺仏、阿弥陀三尊、阿弥陀一尊、組
合せ式石棺の長側石、組合せ式石棺の底石、弘安
4年、西山、地蔵堂裏、消防倉庫裏、彫刻、建造
物、考古資料、石仏

●所在地／加古川市平荘町西山 103

●交 通／JR加古川駅発神姫バス「駒の蹄」行「西
山」バス停から南へ徒歩2分
車は加古川バイパス「加古川ランプ」から
北へ5.5km

編集・発行：加古川市教育委員会 文化財調査研究センター
平成31年3月29日（2019.03.29/1000）